

教科（科目）	地理歴史（地理総合）	単位数	2単位	学年（コース）	1学年
使用教科書	帝国書院『高等学校 新地理総合』 帝国書院『新詳高等地図』				
副教材等	帝国書院『高等学校 新地理総合ノート』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までに次の資質・能力を育成します。 ① 自己を知り、他者を尊重する思いやりの心を育成します。 ② 自らの進路目標を持ち、その実現に向けて努力する姿勢を育成します。 ③ 自己の住む地域を知り、地域に貢献し、リーダーとなり得る能力を育成します。 ④ 自ら学び、自ら考え判断し行動できる力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	資質・能力を育成するために、次のような教育活動を行います。 ① 人権教育、同和教育を計画的に、教科横断的に実施するとともに、日頃からグループ学習などで生徒同士の関わりを大切にします。 ② 多様な進路希望を実現するため、基礎学力の定着やキャリア教育の充実を図り、生徒が主体的に学ぶ進路学習に取り組みます。 ③ 地域と連携しながら、ひと・文化・産業などについて深く学び、他者と協働し発展的な思考を育てる活動を行います。 ④ 「わかる授業」の実践に努め、生徒の学習意欲向上と主体的・対話的で深い学びの実践活動を行います。

2 学習目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 地理に関わる諸事象の意味や意義、特色や相互の関連を、系統地理的、地誌的に概念などを活用して考察する。地理的な課題の解決に向けて構想し、自分の考えを説明し議論する力を養う。
- (3) 地理に関わる諸事象や諸課題について主体的に学び追究しようとする態度を養うとともに、自国や世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする態度を養う。

3 指導の重点

- ・ 地理に関する基本的な知識や地理的な見方や考え方の習得を目指します。
- ・ 地図や地理情報システム、統計など、各種資料を活用することをとおして、地理的技能の習得を目指します。
- ・ 広く世界に目を向け、グローバルな視点で物事を見たり、考えたりする力を養うことを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それを基に議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査や小テスト ・授業ワークシート、ワークノート、課題探究レポートなど提出物の取り組み状況などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査や小テスト ・ICTを活用したグループワークの取り組み状況 ・授業ワークシート、ワークノート、課題探究レポートなど提出物の取り組み状況などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ICTを活用したグループワークの取り組み状況 ・授業ワークシート、ワークノート、課題探究レポートなど提出物の取り組み状況などから評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価基準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	地図と地理情報システム	地球上の位置と時差 地図の役割と種類	地球上の位置（緯度・経度）の違いと時差の求め方を学ぶ。地図の種類や役割、GISの役割とその活用を学ぶ。	6	ワークノート、 授業ノート、 課題等 授業の取り組み
5	結び付きを深める 現代世界	現代世界の国家と領域 グローバル化する世界	国家の領域や排他的経済水域が各国の経済活動に与える影響について考える。世界の国々は、貿易や交通、通信、観光などそれぞれの面でどのように結びついているかについて学ぶ。	3	
	定期考査			1	考査
6	生活文化の多様性と国際理解	世界の地形と人々の生活 世界の気候と人々の生活	・世界各地の特徴的な地形が、人々の生活に与える影響について学ぶ。 ・世界にみられる様々な気候が、人々の生活に与える影響について学ぶ。	9	ワークノート、 授業ノート、 課題等 授業の取り組み
7	定期考査			1	考査
8	生活文化の多様性と国際理解	世界の気候と人々の生活 世界の言語・宗教と人々の生活 歴史的背景と人々の生活	・オセアニアにおける自然環境と生活文化、産業との関連を学ぶ。 ・言語・宗教と人々の生活との関わりについて学ぶ。 ・植民地化や移民の歴史が、その後の社会や産業に与えた影響について学ぶ。	13	ワークノート、 授業ノート、 課題等 授業の取り組み
9					
10	定期考査			1	考査
	生活文化の多様性と国際理解	世界の産業と人々の生活	・産業の発展とグローバル化により、人々の生活はどのように変化してきているかを学ぶ。 ・アメリカ合衆国の産業は、人々の生活にどのような影響を与えているか学ぶ。	3	ワークノート、 授業ノート、 課題等 授業の取り組み

11	地球的課題と国際協力	地球環境問題 資源・エネルギー問題 人口問題	・地球環境問題の解決のために、世界の人々はどのように協力していくことが必要か考える。 ・日本や世界は、資源・エネルギー問題に対して、どのような取り組みをしていくべきか考える。 ・発展途上国と先進国における人口問題とその対策の違いを学ぶ。	8	
	定期考査			1	考査
1	地球的課題と国際協力	食料問題 都市・居住問題	・食料問題の解決にむけてどのような取り組みができるか考える。 ・世界における都市・居住問題について、その要因と対策について考える。	4	ワークノート、 授業ノート、 課題等 授業の取り組み
	自然環境と防災	日本の自然環境 地震・津波と防災 火山災害・気象災害と防災	・日本の自然環境の特徴とその要因を学ぶ。 ・地震や津波の特徴とその対策を考える。 ・火山や火山災害の特徴を学び、その対策を考える。 ・日本の気象災害の特徴を学び、その対策を考える。	9	
2	定期考査			1	考査
	自然環境と防災	自然災害への備え	・自然災害に備え、日頃から何ができるかを考える。	2	ワークノート、 授業ノート、 課題等 授業の取り組み
3	生活圏の調査と地域の展望	生活圏の調査と地域の展望	・地域調査の方法を学ぶ。	2	

計 64 時間 (55分授業)

7 課題・提出物等

- ・学習テーマごとにワークシートやワークノートの提出があります。
- ・テーマに沿ってレポートを作成したり、課題学習をすることがあります。
- ・長期休業中の課題は、別途指示します。

8 担当者からの一言

地理とは「地域性を見出す学問」と言われます。例えば、「燕市＝金属加工の町」と覚えるだけでなく、「燕市はなぜ金属加工の町になったのか？」という視点で地域の特徴を様々な角度から調べ、その答えを見つけ出していくのが地理になります。「なぜ？」を大事に、地理を学習していきましょう。